

家族の形態論的アプローチ

- 数量的把握: 地域・時代比較にむく
- 家族の内部過程・関係の分析はできない
- データ: 国勢調査、世帯調査、大量観察
宗門改帳、教区簿冊等

研究の知見: 戸田(核家族は三世代家族よりも多い、東北地方・都市型・内地一般型の家族類型): 小山(多層民家・大家族は生態的環境の結果、古代の大家族の残存形態ではない)、速水(東北日本型—西南日本型)

歴史社会学的アプローチ

- 伝統家族(家・同族研究)
- 近代家族(子供期の発見、感情革命、家族が私的世界に、性別分業)
- 近年:歴史人口学:宗門改帳→家族規模、ライフコース
- 現代家族における感情、ジェンダー

家族・学校・職場の変質と感情 労働・感情処理の専門化

- アイデンティティ形成の場：共同体的性質
- 社会生活の機能充足集団：利益組織的
- ↓
- 共同体の縮小→利益組織の拡大（結合定量の法則・機能定量の法則）
- 利益組織の共同体化：感情処理労働の拡大（医療・福祉・セラピーの拡大、目的集団に感情処理を委任）
- 処理が期待はずれ→逆切れ、お客様資本主義？